

生ける水

発行者
日本福音教会連合
岡山市北区丸の内
1丁目11番15号
理事長
倉賀野 攻
編集
太田 正信

わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう。ヨハネ7:38

目次

- P.1 ペンテコステの恵み …… 加藤 信治
- P.1 時の声
- P.2 教会巡り⑮ 益田福音教会 … 中島 政幸
- P.2~3 いのちの雫 …………… 稲田 敏朗
- P.3 春の聖会報告 …………… 鶴沼 芳道
- P.3~4 中国聖会報告 …………… 稲田 敏朗
- P.4 報告・案内 etc ……

ペンテコステの恵み

湘南教会
牧師 加藤 信治



ハレルヤ、ペンテコステの恵みを感じます。

「そこでペテロは彼らに答えた。『悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。』(使徒行伝2:38)

主イエスが語られたように、心を合わせて祈り求めていた弟子たちに聖霊が降りました。また今度は、弟子たちが、主イエスの言葉を信じて主イエスの死と甦りを人々に証したところ、人々に聖霊(イエスの御霊)が降りました。ここに、主イエスが弟子たちと共に生活し働いておられた共同体が、昇天された後にも、霊的存在として共においでくださる共同体として再生されました。『そして、彼らは使徒

たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。(使徒2:42) どのような交わりの中で、主イエスが共におられ、働かれるから起こる御業が次々と起こり、救われる者が起こされ、迫害下、神の言葉は広がっていききました。

「あなたこそ生ける神の子キリストです。」「この岩の上になわたしの教会を建てる。黄泉の力もこれに打ち勝つことはない(マタイ16:16、18)。」黄泉の力に支配されている世です。この世の習わしに従い、不従順の子らの中に働く霊に従って、私たちも滅びに向かっていることを知らず、命を見失っていました(エペソ2:2、マタイ16:26)。しかし、イエスの死と甦りを通して、神の愛と力を知り、その死と甦りに自らも合わされることにより、新しい命に生きる道を見出しました。主イエスが黄泉の力に打ち勝たれた、そしてイエスを主と告白する者

たちの共同体である教会も黄泉の力に打ち勝つ力を与えられています。さらに、ここでしか黄泉の力、サタンの力に打ち勝つ道は与えられていません。

イエスと弟子たちの共同体、主イエスは12使徒たちを選び、生活を共にし、弟子たちを愛し、互いに仕え合うことを教えました。また人々の病気やわずらいを癒し、悪霊を追い出し、御国の福音を伝え、興義を聞かせ、訓練し、同じ働きをする者として送り出されました。また七人の弟子たちに福音を宣べ伝えるように送り出されました。主イエスを中心とした小さな交わりの中で、弟子たちは何をしたらいいのかの指導を受け、出て行きました。

主イエスの教会 ペンテコステ後、主イエスは天より御霊を遣わして(使徒2:33、ヨハネ16:14、15)、弟子たちを用いて主の働きを行われまします。イエスがこの教会や共同体と共に知られて御業を行わ

れる、そのことを聖霊がして下さる。木と枝が樹液をもって命の交流をしているように、天におられる主イエスから送られてくる聖霊によって、一人一人に、また共同体に豊かな実を結ばせて下さる。主に

つながり、共同体の中の交わりにより、御霊の実(愛、喜び、平和(平安)、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制。(ガラテヤ5:22、1コリント13:2)を結ぶ。聖霊に人が宿る時、イエスを主と告白する(1コリント12:3)。霊の賜力あるわざ、霊を見分ける力、預言、異言、異言を解く力(1コリント12:7)が与えられ、キリストのからだを建て上げ合う働き(使徒、預言者、教師、奇蹟を行う者、いやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者など、(1コリント12:28、ローマ12:6、エペソ4:11)をもって互いに仕え合う。

今の教会においても、初代教会のような日常的な小さな親しい交わりの中で、主の弟子たちが互いに御言葉を分かち合い、悔い改め、赦し合う交わりを持ちたいものです。その中で、主の癒しや解放が起こり、人々が救われ、新しい、ビジョンが与えられる御業を拝したく願います。

時の声

天地万物の創造者であり、支配者である神は、ご自身がしようとされる事を前もって告げられた。大洪水における当時の世界への審判をノアに(創世記6章5~22節)。

ソドムとゴモラに対する天からの火による裁きをアブラハムに告げられた(創世記18章17節)。

『まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされぬ』(アモス3章7節)とある通りである。

新約の私たちには、『神は昔は、預言者たちにより、色々な時に、色々な方法で、先祖たちに語られたが、この終りの時には、御子によって、私たちに語られたのである』(ヘブル1章1~2節)。それは、キリストを主と仰ぐキリストの体なる教会とそこで語られる神の御言であり、聖書そのものである。

イエス様は、『天地は滅びるであろう。しかし私の言葉は滅びる事がない。だから、気をつけていなさい。いつかの事をあなた方に前もって言うておく。用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るから』と言われた。あとは聞いた者の責任である。

日本福音教会連合 教会巡り⑬ 益田福音教会発足から現代

益田福音教会

牧師 中島 政幸



教会のある益田市は日本海に面する、島根県西部の町で、主に商業を中心にした町です。萩・石見空港を誘致したり、いろいろしているようですが、それほど成功しているわけではありません。

教会は一九五六年故松田幾雄師による椋木サダメ姉宅の家庭集会から始まり、一九五七年に浜田キリスト教会に故青木林平師が着任し、正式に浜田キリスト教会の伝道所となりました。そして一九七

七年八月の中野恵美子牧師を迎え、久城縫製工場の一部を借り、浜田キリスト教会より独立。益田福音教会が誕生しました。
一九七九年四月竹の尾団地に移転。一九八三年十月下本郷町に建物を購入移転しました。一九八八年中野恵美子牧師辞任。二年間近隣連合牧師により集会が守られ、一九九〇年川崎和子師が赴任し、活発な活動が続けられました。二〇〇五年中島政幸師着任。一年

間の引き継ぎ期間を終えて、二〇〇六年に川崎和子師は引退され、長きに渡った牧師生活に一つの区切りをつけられました。二〇〇四年に教会員より土地が献げられ、二〇〇八年新たに現在の久城に小さなながらも駐車場を備えた新会堂を建築。十一月に献堂式を行い新たな一歩を始めました。詳細は連合三十年記念誌、生ける水誌二六・クリスマス号四面等をご覧ください。

集会は、日曜日十時より教会学校。十時三十分より礼拝

を持っていきます。礼拝の中では聖書拝読前の賛美を「今日の賛美」として教会員持ち回りで、自分の好きな賛美を選んで賛美させていただきます。礼拝メッセージはイースター、ペンテコステ、クリスマスシーズンに別にして、昨年より旧約聖書人物伝として、アダムより順番に見てきました。今年はその続きで、ダビデからマラキまでを予定し二年前かけて旧約聖書の人物を通して概観出来ればと考えています。特に今年には連合のみ言葉が「イエスを仰ぎ見つ

つ」であり、教会もそのみ言葉を教会のみ言葉としましたので、旧約の人物を通してイエス様を仰げればと思います。が、何分未熟ですので、うまく合わせる事が出来ず、申し訳なく思っています。

会堂は、講壇に向かって左前の会衆席の場所にコタツを置き、座敷スペースとしていきます。人数が多いと出来ない事ですが、少人数であるがゆえに、交わりの時など、大変家庭的な雰囲気、私自身も一息つく事の出来る、私のとつての癒しの空間となっています。もともと人によつては、礼拝の雰囲気や壊れる事を懸念される方もおられるかも知れませんが、冬などコタ

ツに入りながらメッセージを聞くなど、他では味わう事の出来ない光景は、非日常である礼拝と、日常生活であるコタツが融合し、大変好ましく感じています。

話は変わりますし、比べる事ではありませんが、昔聖会などでは会衆席の前に「恵みの場」としてゴザなどが敷かれ、座布団に座って聖会に参加する光景を見ました。今は見無くなりましたが、いずれ出来ればコタツスペースが「恵みの場」になればと、密かに思っています。でも、ここに書いたら、当然益田の教会員も見ますから、密かにではなくりますね。再考・・・



また今年より、月の第二週に交わりの後、簡単な祈りの時を持つようにしました。いづれは毎週の交わりの後、祈りの時を持つ事を目標にしていますが、最初から毎週にすると、強制や律法的に感じているので、現在は月一回から始めた所です。

将来の事として、今の教会には牧師館がなく、牧師がどうしても通いにならざるを得ません。そのため現在浜田より約五〇分かけて益田に通っていて、活動に制約がありすぎて、教会の働き、集会は日曜日のみとなっています。元の下本郷にも会堂があります、使わなくなつて3年がたち、元々の築年数の多さも合わせて痛みも多く、実際人が大変住みにくい状態となっています。修理も膨大にかかりすぎて、現実的ではありません。そのため、下本郷の会堂は処分して、現在の場所に牧師館を移転する事を考えています。

また、これから救われる人が多く与えられる事を願う中、さらに広い場所が必要になってきます。幸い、教会の隣に今の教会よりも広い土地があり、駐車場、牧師館の確保のためにも、今から祈りを積み重ねていきます。

いのちの雫

執り成しの祈りの勝利

江尾キリスト教会

牧師 稲田 敏朗

クリスマスチャンを夫に持つ婦人がありました。婦人の一つの悩みは、クリスマスチャンになつても止まぬ夫の飲酒でした。ある時、婦人は意を決して教会を訪ね、その悩みを打ち明けるのです。勿論、夫には内緒の訪問でした。応対してくださつたお方は牧師夫人でした。婦人の話を聞きながら牧師夫人は「決してご主人に酒を飲むな、などと言つてはいけません。非難してはいけません。好きなだけ飲ませてあげなさい。……」その日から二人の女性の祈りが始まりました。「お酒と縁が切れますように……」、何年かの月日が経ちました。やがて、夫の飲酒癖が次第におさまつていきました。ある時、婦人は夫にその日を回顧しながら、「……そんなことがあつたのよ……」と語り出したのです。夫の肩が嗚咽で震えました。今度は夫が牧師夫人を訪ねました。「……あなただから、きつと立ち直れると思ひ、そう奥様に申し上げたのです。他の人なら、その時にそう言

春の聖会報告

富士見望キリスト教会 牧師 鶴沼芳道



今年一四回目の春の聖会には、日本キリスト教団・赤羽教会牧師 大友英樹先生を講師にお迎えしました。午前・午後とみ言葉を取継いで頂きました。初めにホーリネスの恵みに生きる教会です、連合も同じ信仰の流れにある団体兄弟姉妹です。テーマは「宣教」副題「わたしたちの教会の信仰」午前の題は「救いの道歩もう」聖書は、エペソ人への手紙一章三―十四節 日本福音教会連合の沿革と教義・日本聖教会則の関連付けを教えて下さいました。旅をする時に道順を辿ります、同じように信仰の道も見取図を持ちながら歩めば幸いですと、話を切り出され、聖書が示す救いの道を学びましょう。旅の中に、クリスチャン生涯を現す天路歷程と言う話があります。キリストの十字架に至るまでの出来事、十字架の贖

い、復活、天国を目指す。救いの道をどのように目標を持って歩ませたいですか、エペソ人への手紙第一章より開いて下さいました。一、神の選びを知る、天地の造られる前から選ばれた、神様が予め選んで下さった(四節)、神がわたしを選んで下さった。(ヨハネ一五章十六節)二、神の先行する恩寵を知る、予め先立って選びかつ備えて下さった(五節)、神が恵みを注いで下さいました。キリストの贖いの恵み(七節)キリストの血潮によって罪を赦された。そして聖霊の証印(十三節)神の国の相続者であるキリストの血潮によって罪赦された恵みに感謝しましょう。四重の福音(新生・聖化・神癒・再臨)の信仰を持って歩みましょうとお勧め頂きました。

午後の題は、「明確な信仰体験をしよう」ヨハネの第一の手紙一章五―十節、明確な信仰体験をする新生経験、み言葉によって明確に救われている経験・確信を持つ事、自分が、罪からの救いをバックス・トン聖会において、今日きよめられなければならないと、きよめを求めて前に出て祈っていただいた。主に凡てを明け渡した時、聖霊の満たしを受けた、聖化の恵みに与ったとのご自身の体験をお話し下さいました。何から救われたかとの明確さが必要である、自覚されていない信仰は罪が明確にされていないのであります。罪には二重性、二重の取り扱いはある、四重の福音で言えば、新生と聖化でありませぬ。二段階、それは新生と聖化の恵みである。信仰の初歩において罪の赦しを受けて新たにされる、これが新生の恵み、(一段階)二段階は、新生しても罪の性質、原罪を持っている、この凡ての不義からきよめられる、これが聖化、第二の恵みである、植村正久師によると「罪との隔絶である」神との断絶であります。罪とは古き人、内住する罪、からみつく罪、苦い根と様々な表現で用いられております、罪の根本は一つである原罪です、すべての罪と不義とあります、すべての罪とは言語では、単数形を用い

められなければならないと、きよめを求めて前に出て祈っていただいた。主に凡てを明け渡した時、聖霊の満たしを受けた、聖化の恵みに与ったとのご自身の体験をお話し下さいました。何から救われたかとの明確さが必要である、自覚されていない信仰は罪が明確にされていないのであります。罪には二重性、二重の取り扱いはある、四重の福音で言えば、新生と聖化でありませぬ。二段階、それは新生と聖化の恵みである。信仰の初歩において罪の赦しを受けて新たにされる、これが新生の恵み、(一段階)二段階は、新生しても罪の性質、原罪を持っている、この凡ての不義からきよめられる、これが聖化、第二の恵みである、植村正久師によると「罪との隔絶である」神との断絶であります。罪とは古き人、内住する罪、からみつく罪、苦い根と様々な表現で用いられております、罪の根本は一つである原罪です、すべての罪と不義とあります、すべての罪とは言語では、単数形を用い



【第14回】春の聖会 大友英樹牧師を迎えて 2011年4月29日(金) 昭和の日 in 聖泉キリスト教会

ています、一つの罪、罪の二重性を示している。私たちが罪から救われてというのは、罪の二重性からも救われているという自覚ある信仰が大切であります。ホーリネスの信仰に立つて捕えるのが必要であります、洗礼を受けてから

気づく内住の罪を、主イエス・キリストの十字架の血潮によってきよめていただき、自身自身を明け渡し従う時、聖霊、御霊が中に注がれ、きよめられる。イエス・キリストの血潮がこの罪を引き出す性質までには届いて下さったのであります。これが第一のきよめ、又さらに第二のきよめの信仰(内住の罪をきよめて頂く)をいただいでしっかりと受け留めましょうと勧められ、信仰の確信を持つてきよめの恵みに与りましょうと結ばれました。一同心探られ、一新にされた恵みの場となりました。祈りの時を共に持ちました。午前は多摩キリスト教会、午後は聖泉キリスト教会の愛兄弟姉妹方より賛美をして頂き幸いな時でもありました。出席は大人子供合わせて六四名でした。

中国聖会の恵み

江尾キリスト教会

牧師 稲田敏朗

去る五月三、四日、中四国地区協議会では、日本のキリスト教社会にあって、数々の

「あなたがたに言うておく。わたしの父の国でああなたがたと共に、新しく飲むその日までは、わたしは今後決して、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない。」
マタイによる福音書二六章二九節の御言葉です。

つたかどうかは分かりません……、その時も夫の胸は震えました。やがて、夫は職場を辞して神学校に行くのです。当然のことながら、神学校の寮生活に飲酒の時間はありませんでした。この婦人とは、言うまでもなく家内のことであり、夫とは私のことです。そして、大恩人の牧師夫人とは、高知福音教会の郷千恵子牧師先生のことです。牧師となった今、「本当の牧会とは……」と心を傾ける時、ふとこの時のことが思い起こされるのです。

母モニカは、息子アウグスティヌスが異端マニ教に煽られていた時、司教を訪ねて諭を願います。彼は賢くも母モニカの申し出を拒絶します。「息子さんをそのままにしておきなさい。ただ、彼のために、ひたすら祈りなさい。……もう、お帰りなさい。今のような真剣な生き方で十分です。このような涙の子が減るはずはありません。」司教はこう告げたのです。



ト教会において開かれました。

主の御名によって開かれる聖会は、いつでも、どんな聖会であつても、集う一同の上に、豊かな恵みを注いでくださるのですが、この度の中国聖会でも、神様の御恵みに圧倒された素晴らしい聖会となりました。その一方、すべての参加者は、終始、心を一つにして「東日本震災」で被災された方々を覚え、その方々のために篤い祈りを捧げる聖会となりました。

榎原先生は、聖会Iにおいて、まず「へブル人への手紙」第二章一七節〜一八節から「憐れみ深き忠実な大司祭」と題して語ってくださいました。イエス様は大司祭となつて、神様と私たちの間を執り成してくださいました。そのお方の仲立ちで、私たちは、はばかりることなく神様の御前に近づけるのです。大司祭なるイエス様には、二つの目的がありました。その一つは私たちの罪を贖い、なだめ、償ってくださるという目的でした。

二つ目は、試練の中にある者を助けるために、私たちと同じようになつてくださるといふ目的でした。先生は、ご次男を天に送られたその慟哭の中にも、主は傍らに立ちながら「やがて夜が明けそめる」と慰めてくださった感動を語ってくださいました。

聖会IIでは「へブル人への手紙」一第二章一節〜三節から「イエスを仰ぎ見つつ走りぬく」と題してお語りくださいました。クリスチャン生涯とは、「いつさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、イエス様を仰ぎ見つつ、Jesusの馬拉ソンコースを走る抜くことです。」「ウサギと亀」の競争で、亀はどうしてウサギに勝つたのでしょうか、ウサギは亀を見ています。然し、亀はしっかりとゴールを見つめています。私たちの目指すゴールは御国です。ニューヨーク・シティ・マラソンの障害者部門で、最下位ランナーとなつた方は、両足を付け根から失つたボブ・ウィーランドというお方でした。両腕だけで五日間を費やしてゴールのテープを切つたその瞬間、彼の口から出た言葉は、「主の御名を讃美します。」という言葉でした。

聖会二日目の早天の御用は太田正信先生が担当して下さいました。開かれた御言葉は「サムエル記上」一第二章一九節から二五節の御言葉でした。先生は御言葉の一節、一節を丁寧に解き明かしてくださいました。そして、「あなたがたは、このすべてを悪をおこなつた。然し、恐れることは無い。すべてが赦されている。だから心をつくして主に仕えなさい。あなたがたは折ることをやめて主に罪を犯してはならない。私たちは「現代のサムエル」となり、人々のために執り成しの祈りを捧げよう。」と勧めてくださいました。

最後の聖会IIIでは「へブル人への手紙」一三章五節〜八節から「主はわたしの助け手、わたしは恐れぬ」と題してお語りくださいました。深遠な「へブル人への手紙」から途切れることなく響いてくる「ツウソウテイオン」「通奏低音」は、「耐える」「忍ぶ」「耐え忍ぶ」、そして、「思いやる」「思い見るべきである」「思ひ出す」という御言葉です。私たちは十字架の死をも耐え忍んでくださったお方を知っています。そのお方が、「私は、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」と仰せ下さるのです。「思いやる」とは、思いを遣わすことです。人の身をおしはかつて、その人の立場に立つてキリストの愛を

伝えるのです。それが、勝ち得て余りある生涯を歩むと云うことです。終わりにあつて中国聖会が終わつた後、改めて榎原先生の語られたテープを聞かせて頂きました。本当に恵みでした。榎原寛先生をはじめ、岡山中央キリスト教会の皆様、そしてすべての参加者の方々に心よりお礼申し上げます。

「思いやる」とは、思いを遣わすことです。人の身をおしはかつて、その人の立場に立つてキリストの愛を

第41回 夏季 聖会

講師 小紫 義弘 師 (日本伝道隊理事長)

主題 **イエスを仰ぎ見つつ**

聖句 『イエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか』
へブル12章2節

『彼らが目をあげると、イエスのほかには
だれも見えなかった』 マタイ17章8節

会場 サンロード吉備路

プログラム

8月2日(火)	8月3日(水)	8月4日(木)
受付 13:30	早天祈祷会 6:30~ 説教、阿部俊昭師 朝食 7:30~	早天祈祷会 説教、加藤信治師 朝食
第1聖会 15:00 説教、太田正信師 司会、三浦 愛師	第3聖会 10:00~ 説教、小紫義弘師 司会、加藤信治師 昼食 12:00~	第6聖会 説教、小紫義弘師 司会、稲田敏朗師 昼食
夕食 18:00~	第4聖会 14:00 説教、倉賀野攻師 司会、朴 永信師 聖歌隊練習	
第2聖会 19:00~ 説教、小紫義弘師 司会、戸叶 誠師	夕食	
	第5聖会(宣教会) 説教、小紫義弘師 司会、太田正信師	

報告・案内

◆熊毛キリスト教会(石井敬子牧師)では、二月一三日

◆高知福音教会(郷千恵子牧師)の谷昭二兄(79歳)は四月一四日(木)愛する主のみもとに召されました。ご遺族の上に主の慰めをお祈り致します。

◆岡山中央基督教会(倉賀野攻牧師)では、五月八日(日)母の日礼拝で、喜多真理姉の洗礼式が行われました。おめでとうございます。

伝えるのです。それが、勝ち得て余りある生涯を歩むと云うことです。終わりにあつて中国聖会が終わつた後、改めて榎原先生の語られたテープを聞かせて頂きました。本当に恵みでした。榎原寛先生をはじめ、岡山中央キリスト教会の皆様、そしてすべての参加者の方々に心よりお礼申し上げます。

◆湘南教会(加藤信治牧師)では、四月二四日(日)のイースターに須貝明兄の洗礼式が行われました。おめでとうございます。関東地区協議会主催の春の聖会は祝福の中に開催されました。お祈りを感謝します。報告記をご覧ください。◆中四国地区協議会主催の中国聖会は祝福の中に開催されました。お祈りを感謝します。報告記をご覧ください。

◆湘南教会(加藤信治牧師)では、四月二四日(日)のイースターに須貝明兄の洗礼式が行われました。おめでとうございます。関東地区協議会主催の春の聖会は祝福の中に開催されました。お祈りを感謝します。報告記をご覧ください。◆中四国地区協議会主催の中国聖会は祝福の中に開催されました。お祈りを感謝します。報告記をご覧ください。